

3. 銀の道遊歩道

(1) 概 要

この道は、平安時代の末期尾瀬三郎房利が京を追われ、尾瀬へ逃げのびた道としての伝説を持っている。尾瀬発見の伝説から五百年後銀山が発見され、銀を運ぶ唯一の道として登場するのである。今から三百余年前の江戸時代初め赤の川（只見川）で銀鉱が発見され、幕府の命により、採鉱に乗り出した越後高田藩によって開設された。

以来、閉山される江戸時代末期まで、銀の運び出しとともに、鉱夫や物資を運ぶ商人で賑わいを見せた道であった。やがて、鉱道崩壊事故により、220年にわたる鉱山の歴史は幕を閉じた。この銀山跡も昭和36年奥只見ダムの完成により、湖底に沈んでいる。

銀山閉山から160年栄枯盛衰を歩んだ古の道である。

(2) 遊歩道の現況

起点は駒の湯の近く坂本。そこから駒ヶ岳登山道と交差する大明神までが登り、そこから下り、銀山平の石抱橋が終点である。

全 長 : 12Km

幅 員 : 1.2m~2.0m

起点坂本~枝折大明神まで標高差：900m 延長8km 登り所要時間約3時間、下り約2時間

枝折大明神~終点石抱橋まで標高差：460m 延長4Km 登り所要時間2時間、下り所要時間1時間40分。

標高差：起点坂本 370m

枝折り大明神 1236m 900m

終点石抱橋 776m 460m

注意点：駒の湯側は信濃川水系、石抱橋側は阿賀野川水系で駒ヶ岳登山道が分水嶺である。従って。天候が変わりやすい。遊歩道とはいえ登山道と思ったほうが適切。利用者は登山の装備の方が適切である。

景 観 : 九合目日本坂（日本中が見渡せるほどの眺望がすばらしい）

北側に国道352号の枝折峠、遠くは黒又連山、南に雄大な百名山越後駒ヶ岳、二百名山荒沢岳、遠くは東に会津駒ヶ岳を望むことができる。



銀の道3合目 榎の木 (昔水榎の大木あった休憩場所)



銀の道 4 合目 水函（昔湧水があり水場の休憩場所）



歩道脇にある魚沼 1 のブナの巨木直径 1.5 m、幹回り 4.7 m 目測